

令和5年4月

○ 発行にあたって

この度の人事異動で校長に着任しました河村です。着任して以来、先生方や生徒の皆さんとの出会いにドキドキしながらも、この広くていたるところに憩いの場がある宇部中央高校のすばらしい環境のおかげで晴れやかな気持ちで過ごしています。

さて、山本前校長の方針を受け継ぎ、推進していくにあたり、私が日頃感じていること、また皆さんに考えてほしいことを「校長室だより～宇部中央の風～」として発行することにしました。「宇部中央の風」は、赴任した時、緑豊かで広大な校庭に、さわやかな風が通る学校だと感じたからです。宇部中央高生が、さわやかにしなやかに、この学び舎に吹く風に乗って、たかく舞い上がってほしいとの願いも込めました。保護者の方にも読んでいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。

○ リスペクト アザース

4月10日に、全日制の始業式、全定合同の入学式、定時制の始業式がありました。その全ての式で、「リスペクト アザース」の話をしました。本校の生徒全員に伝えたいと思ったからです。

あらためて紹介します。「リスペクト アザース」は、ある少年（当時、中3 坪井さん）の書いた作文の題です（※）。この作文を書いた少年は日本人で、10歳までアメリカのカリフォルニア州サンディエゴで過ごしていました。そこでは、小さい頃から、子ども同士で人間関係のトラブルが起こると、先生たちは必ず「リスペクト アザース」と言っていました。「リスペクト」の意味も知らない保育園・幼稚園の頃から、ことあるごとに繰り返し言われてきたそうです。日本語にすると「他の人のことを尊重しなさい。」という意味になります。彼が所属していたリトルリーグの監督やコーチも、エラーをした選手にチーム全体が「この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、「リスペクト アザース」と言っていたそうです。やる気がなくてエラーをするのはもってのほかですが、一生懸命に練習していてエラーをした場合は分かってやれということです。

その後、日本の小学校に通い始めましたが、彼が叩きこまれた「リスペクト アザース」の世界はありませんでした。みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じになるように非常に気を使っているようでした。他人よりうまくできて目立たないようにしているのです。

彼は次のように主張します。「日本でももっと『リスペクト アザース』が浸透していけばいい。」「同じ人間は一人もいない。人と違っていることがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う」と。

皆さんはどう思いますか。

※ 第32回全国中学生人権作文コンテスト法務大臣賞受賞作品

○ 人権は5歳の子どもでも分かること

日本人の美德として「やさしさ」や「思いやり」が挙げられます。千年に一度と言われる東日本大震災でも秩序が保たれていたことに世界から驚きの声が上がりました。一方で現代社会に生きづらさを抱えている人も少なからず存在します。それは、この3年間のコロナ禍でより一層進んだような気がします。

私も、作文の少年と同じように、日本が「もっと素晴らしい社会」になるためのヒントが「リスペクト アザース」にあるように思います。そして「リスペクト アザース」の考え方の根底にあるのは「人権尊重の意識」だと思います。

人権というと、皆さんの中には次のような考えをもつ人もいるかもしれません。

「なんだか難しいし、単なる理想じゃないの」

「人権ってやさしさや思いやりといった道德の徳目じゃないの」

「いろいろな人権課題があるけれども自分には関係ない」

「自分勝手な人間、わがままな人間を育てることにならないか」などです。

そもそも人権は、明治時代、文明開化の頃に欧米から入ってきた概念で、Human Rights（ヒューマンライツ）の日本語訳です。Rightとは「正しい」ことで、Human Rightsは「人間として正しいこと」という意味です。人権とは、5歳の子どもでも分かるほどシンプルなもののなのです。勝手に人から物やお金を取り上げることは正しいか正しくないか。自分の考えを自由に話せないことは正しいか。なれる職業が決まっている、悪いことをしていないのに逮捕される、仲間はずれにされたりさげすまれたりすることは正しいか正しくないか。

人権は、誰でも生まれながらに持っている特別な権利で、日本国憲法に明記されている現実的な権利です。人権に伴うものは責任であって義務ではありません。義務を果たさなければ人権が奪い取られるということはありません。生まれただかりの赤ちゃんにも、認知症のお年寄りにも、罪や非行を犯した人にも、誰にもある特別な権利です。ただし、自分の人権が尊重されるためには、他者の人権も尊重する責任があるということです。

つまり、「リスペクト アザース」は自分のためであり、よりよい社会のためなのです。そのようなことをお伝えしたくて、式辞でお話ししました。宇部中央高生がそうしたよりよい社会の形成者になってほしいと思います。

○ 校庭紹介（4月）



ソテツコーナーのつつじが見事に咲き誇っています。



掃除時間に生徒たちが花壇の手入れをしています。